

シュリー・グル・パードウカー・パンチャカム

第1節

ॐ नमो गुरुभ्यो गुरुपादुकाभ्यो
नमः परेभ्यः परपादुकाभ्यः ।
आचार्यसिद्धेश्वरपादुकाभ्यो
नमो नमः श्रीगुरुपादुकाभ्यः ॥

om namo gurubhyo gurupādukābhyo
namaḥ parebhyaḥ parapādukābhyāḥ |
ācārya-siddheśvara-pādukābhyo
namo namaḥ śrīgurupādukābhyāḥ ||

オーム。グルとグルのサンダルに敬意を表する。
至高なるグルと彼の至高なるサンダルに敬意を表する。
精神の師でありシッダの王のサンダルに敬意を表する。
何度も何度も、シュリー・グルのサンダルに敬意を表する。

第2節

ऐंकारहींकाररहस्ययुक्त-
श्रींकारगूढार्थमहाविभूत्या ।
ॐकारमर्मप्रतिपादिनीभ्यां
नमो नमः श्रीगुरुपादुकाभ्याम् ॥

aiṅkāra-hrīṅkāra-rahasya-yukta-
śrīṅkāra-gūḍhārtha-mahāvibhūtyā |
omkāra-marma-pratipādinībhyām
namo namaḥ śrīgurupādukābhyām ||

シュリー・グルのサンダルに、何度も何度も敬意を表する。
それは種字アインとフリーン、

そしてシュリーンの持つ深遠な意味の偉大な栄光に恵まれ、
オームの神秘を解き明かす。

第3節

होत्राग्निहौत्राग्निहविष्यहोतृ-
होमादिसर्वाकृतिभासमानम् ।
यद्ब्रह्म तद्बोधवितारिणीभ्यां
नमो नमः श्रीगुरुपादुकाभ्याम् ॥

hotrāgni-hautrāgni-haviṣya-hotṛ-
homādi-sarvākṛti-bhāsamānam |
yadbrahma tadbodha-vitāriṇībhyām
namo namaḥ śrīgurupādukābhyām ||

シュリー・グルのサンダルに、何度も何度も敬意を表する。
それは、ホートウラグニとハウトウラーグニ（神聖な犠牲の火）、
供物、司祭、儀式的な犠牲そのものといった、
すべての形を取って現れるブラフマンについての知識を授ける。

第4節

कामादिसर्पव्रजगारुडाभ्यां
विवेकवैराग्यनिधिप्रदाभ्याम् ।
बोधप्रदाभ्यां द्रुतमोक्षदाभ्यां
नमो नमः श्रीगुरुपादुकाभ्याम् ॥

kāmādi-sarpavraja-gāruḍābhyām
viveka-vairāgya-nidhi-pradābhyām |
bodhapradābhyām drutamokṣadābhyām
namo namaḥ śrīgurupādukābhyām ||

シュリー・グルのサンダルに、何度も何度も敬意を表する。
それは、数知れない欲望の蛇への
ガールダ、毒よけのマントラとして働き、
識別力と平静さという宝を授け、
真の知識を授与し、そして即時の解放を与える。

第5節

अनन्तसंसारसमुद्रतार-
नौकायिताभ्यां स्थिरभक्तिदाभ्याम् ।
जाड्याब्धिसंशोषणवाडवाभ्यां
नमो नमः श्रीगुरुपादुकाभ्याम् ॥

ananta-saṁsāra-samudra-tāra-
naukāyitābhyāṁ sthirabhaktidābhyām |
jāḍyābdhi-saṁśoṣaṇa-vāḍavābhyām
namo namaḥ śrīgurupādukābhyām ||

シュリー・グルのサンダルに、何度も何度も敬意を表する。
それは、果てしない世俗の大海を渡る船であり、
揺るぎない献身を授け、
そして精神的な無感覚の大海を干上がらせる激しい炎である。

ॐ शान्तिः शान्तिः शान्तिः ॥

om śāntiḥ śāntiḥ śāntiḥ ||

オーム。平和！平和！平和！

© SYDA Foundation®.著作権所有。

「シュリー・グル・パードウカー・パンチャカム」

シュリー・グルのサンダルについての五連詩

クリシュナ・ハダッドによる紹介

シッダ・ヨーガの道では、生徒はサッドウグル、真の師を、神の恩恵を授ける力として、そして自分自身の神聖な大いなる自己の光に到達する内なる旅を導く精神的な師として、敬い、たたえます。

古代から、グルの足とグルのサンダルは、この神聖な恩恵の力の象徴となってきました。インドでは、聖人の足とサンダルに敬意を払うことは慣習です。なぜなら、内なるシャクティは頭頂から全身を通して流れ、足から外へ出ると言われているからです。従って、グルのサンダルに敬意を表すことは、グルとグルが探究者たちに授ける恩恵の神聖な力を崇拝するための、深く豊かな歴史が染み込む伝統的な方法です。

シッダ・ヨーギがグルのサンダルを崇拝する方法の一つは、この神聖なグルの恩恵の形を褒めたたえるサンスクリット語の賛歌、「シュリー・グル・パードウカー・パンチャカム」(シュリー・グルのサンダルについての五連詩)を歌うことです。

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダは、長年にわたって数え切れないほど、シッダ・ヨーギたちが「シュリー・グル・パードウカー・パンチャカム」を歌うことを導いてきました。この賛歌は私にとって特別な意味があります。というのも、2001 年に、若者向けのプレモツツァヴァ・ミュージック・リトリートで、毎朝の始まりに歌うよう、グルマーイが選んだのがこの賛歌だったからです。このリトリートで、若いミュージシャンたちは——私も含めて——シッダ・ヨーガの音楽の練習と学習に浸りました。シッダ・ヨーガの音楽の達成すべき目標は、至高の陶醉、大いなる自己の陶

酔であると、私たちは学びました。毎日の始まりにグルのサンダルを崇拝することは、私たちが身に付けた教えの具体的な表現でした。「シュリー・グル・パードゥカー・パンチャカム」とグルのサンダルの崇拝は、このリトリートとシッダ・ヨーガの音楽の中に永遠に存在するグルの恩恵の力を、いつも私に思い出させます。

1972 年にバーバ・ムクターナンダが「シュリー・グル・ギター」をグルデーヴ・シッダ・ピートウでアーシュラムの日課の一つに定めて以来、「シュリー・グル・パードゥカー・パンチャカム」は朝のスワーディヤーヤの実践を始める際に歌われてきました。アドゥヴァイタ・ヴェーダーンタの偉大な師であるアーディ・シャンカラチャーリヤによるものと伝統的に考えられているこの賛歌の本文では、グルのサンダルは「真の知識を与える」——大いなる自己の知識を与える——と述べて、グルのサンダルを称賛しています。

上の録音を聞きながら、グルマールと共にこの神聖な賛歌を歌うようお招きします。あなたが崇拝を行っている間、パードゥカーの形を取ったグルの恩恵の力は、あなたとシュリー・グルの間に存続しているつながりとして、あなたの内側にも存在しているという意識を保ってください。

